

駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の地蔵菩薩像・十王図	
種別	美術工芸品(絵画)	
指定	長野県宝 (平成 19・5・1)	
所在地	赤穂 29	
所有者	光前寺	
説明	<p>十一幅 15 世紀作。 各寸法 : 地蔵菩薩像・縦 98.7cm、横 37.8cm 十王図・縦 100.0cm、横 38.8cm</p> <p>地蔵菩薩像と十王図とは寸法が違うことからわかるように、別の画家になるものであるが、一具となって伝来している。地蔵菩薩は地獄におちた亡者を救済する菩薩であり、地蔵菩薩と十王が一幅に描かれた例もある。しかし、光前寺本は十王図が中国の明代の絵画であるのに対して、地蔵菩薩像はわが国の室町時代の作成になるので、明らかに後世一具にしたものである。</p> <p>地蔵菩薩像は蓮台に坐し、両手を組んだうえに宝珠をのせる姿に描かれている。下段には、不動明王の脇侍である矜羯羅(こんがら)・制任迦童子(せいたかどうじ)が地蔵に立ち添う。このような三尊形式を持つ地蔵菩薩像の先例には、滋賀県・浄真寺に、鎌倉時代後期にさかのぼるものとして重要文化財の指定を受けている一幅がある。</p> <p>一方の十王図は、上半に水墨画が描かれた衝立(ついたて)を背に坐す十王及び亡者の罪状を報告する従者、下段には地獄でのもろもろの責め苦をうける亡者が描かれている。</p> <p>画面上方の左右の端には墨書があり、尊名と本地仏の名が書かれている。</p>	
		
	地蔵菩薩像	十王図:五道転輪王阿弥陀如来
	『長野県 美術権利区資料編全一卷(一)美術工芸』より	